

様式第二号の八（第八条の四の五関係）
(第 1 面)

産業廃棄物処理計画書	
7年 6月 30日	
豊橋市長 殿	
提出者	
住所 愛知県豊橋市老津町字後田25番地の1	
氏名 三共食品株式会社 代表取締役 中村俊之	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 0532-23-2361	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	三共食品株式会社
事業場の所在地	愛知県豊橋市老津町字後田 2 5 番地の1
計画期間	令和7年 4 月 1 日～令和8年 3 月 3 1 日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	食品製造業
② 事業の規模	販売数量：4,720トン
③ 従業員数	124名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	専門業者への委託処理

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 責任部門：生産管理部・営繕グループ 生産部門・管理部門・社内ごみ分別廃棄 ⇒ マニフェスト発行 (電子マニフェスト) ⇒ 委託業者もしくは自社運搬 ⇒ 委託業者処理 ⇒ 最終処分マニフェスト確認 (電子マニフェスト)			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度 (6 年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	動・植物性残渣	廃プラスチック
	排 出 量	1, 346. 9 t	91. 4 t
	(これまでに実施した取組) 製造工程から発生している無駄の削減		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動・植物性残渣	廃プラスチック
	排 出 量	1, 338 t	90. 8 t
	(今後実施する予定の取組) 製造工程から発生している無駄の削減		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動・植物性残渣、廃プラスチック、汚泥 (動・植物性残渣 含有水分高い) 混合廃棄物、引火性廃油、木くず、可燃ごみ、資源ごみ、乾電池 水銀灯、蛍光灯		
②計画	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動・植物性残渣、廃プラスチック、汚泥 (動・植物性残渣 含有水分高い) 混合廃棄物、引火性廃油、木くず、可燃ごみ、資源ごみ、乾電池 水銀灯、蛍光灯		

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 責任部門：生産管理部・営繕グループ 生産部門・管理部門・社内ごみ分別廃棄 ⇒ マニフェスト発行 (電子マニフェスト) ⇒ 委託業者もしくは自社運搬 ⇒ 委託業者処理 ⇒ 最終処分マニフェスト確認 (電子マニフェスト)			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度 (6 年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	混合廃棄物	
	排出量	1.59 t	t
	(これまでに実施した取組) 休眠不要物撤去		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	混合廃棄物	
	排出量	1 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動・植物性残渣、廃プラスチック、汚泥 (動・植物性残渣 含有水分高い) 混合廃棄物、引火性廃油、木くず、可燃ごみ、資源ごみ、乾電池 水銀灯、蛍光灯		
②計画	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動・植物性残渣、廃プラスチック、汚泥 (動・植物性残渣 含有水分高い) 混合廃棄物、引火性廃油、木くず、可燃ごみ、資源ごみ、乾電池 水銀灯、蛍光灯		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
①現状	【前年度（ 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量		t	t
	(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		t	t
	(今後実施する予定の取組)			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類		動・植物性残渣	廃プラスチック
	全処理委託量		1,346.9 t	91.4 t
		優良認定処理業者への処理委託量	177.8 t	91.4 t
		再生利用業者への処理委託量	1,169.1 t	t
		認定熱回収業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 製造工程から発生している無駄の削減			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
①現状	【前年度（ 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量		t	t
	(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		t	t
	(今後実施する予定の取組)			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類		混合廃棄物	
	全処理委託量		1.59 t	t
		優良認定処理業者への処理委託量	1.59 t	t
		再生利用業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 休眠不良物撤去			

(第5面)

②計画	【目標】			
	産 業 廃 棄 物 の 種 類		動・植物性残渣	廃プラスチック
	全 処 理 委 託 量		1,338 t	90.8 t
		優良認定処理業者への処 理 委 託 量	355.3 t	90.8 t
		再生利用業者への処 理 委 託 量	982.7 t	t
		認定熱回収業者への処 理 委 託 量	t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 再生利用業者への処理委託割合の増加 問題なく処理されているか現地調査の実施継続			
	※事務処理欄			

(第5面)

	②計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類	混合廃棄物	
		全処理委託量	1 t	t
		優良認定処理業者への処理委託量	t	t
		再生利用業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
		(今後実施する予定の取組) 問題なく処理されているか現地調査の実施継続		
	※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

〇〇年度の産業廃棄物発生量及び〇〇年度の目標

(単位：t/年)

項目		産業廃棄物の種類 (名称)								合計
〇 年 度 の 実 績	〇〇年度の産業廃棄物発生量									
	①自ら再生利用した量									
	②自ら熱回収を行った量(t/年)									
	③自ら中間処理により減量した量									
	④自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量									
	⑤全処理委託量									
	⑥優良認定処理業者への処理委託量									
	⑦再利用業者への処理委託量									
	⑧認定熱回収業者への処理委託量									
	⑨認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量									
〇 年 度 の 目 標	〇〇年度の産業廃棄物発生量									
	①自ら再生利用した量									
	②自ら熱回収を行った量(t/年)									
	③自ら中間処理により減量した量									
	④自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量									
	⑤全処理委託量									
	⑥優良認定処理業者への処理委託量									
	⑦再利用業者への処理委託量									
	⑧認定熱回収業者への処理委託量									
	⑨認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量									

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和7年6月30日	
豊橋市長 殿	
提出者	
住 所 豊橋市鍵田町36	
氏 名 株式会社オノコム	
代表取締役 小野 達朗	
（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）	
電話番号 0532-55-7711	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社オノコム
事業場の所在地	豊橋市鍵田町36
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	06 総合工事業
②事業の規模	工事高 20,000,000,000円
③従業員数	191名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別添1 処理工程図のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
別添 2 管理体制図のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	—
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 電子マニフェストの継続活用 ・ 分別を徹底し、再利用可能なものは再利用する ・ 優良認定のある処分業者を優先的に利用する		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	—
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 前年度の取組の継続		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラ・紙くず・木くず・金属くず・廃石膏ボード・がれき類・コンクリートがら・石綿含有廃棄物等に分別している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 前年度の取組の継続

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

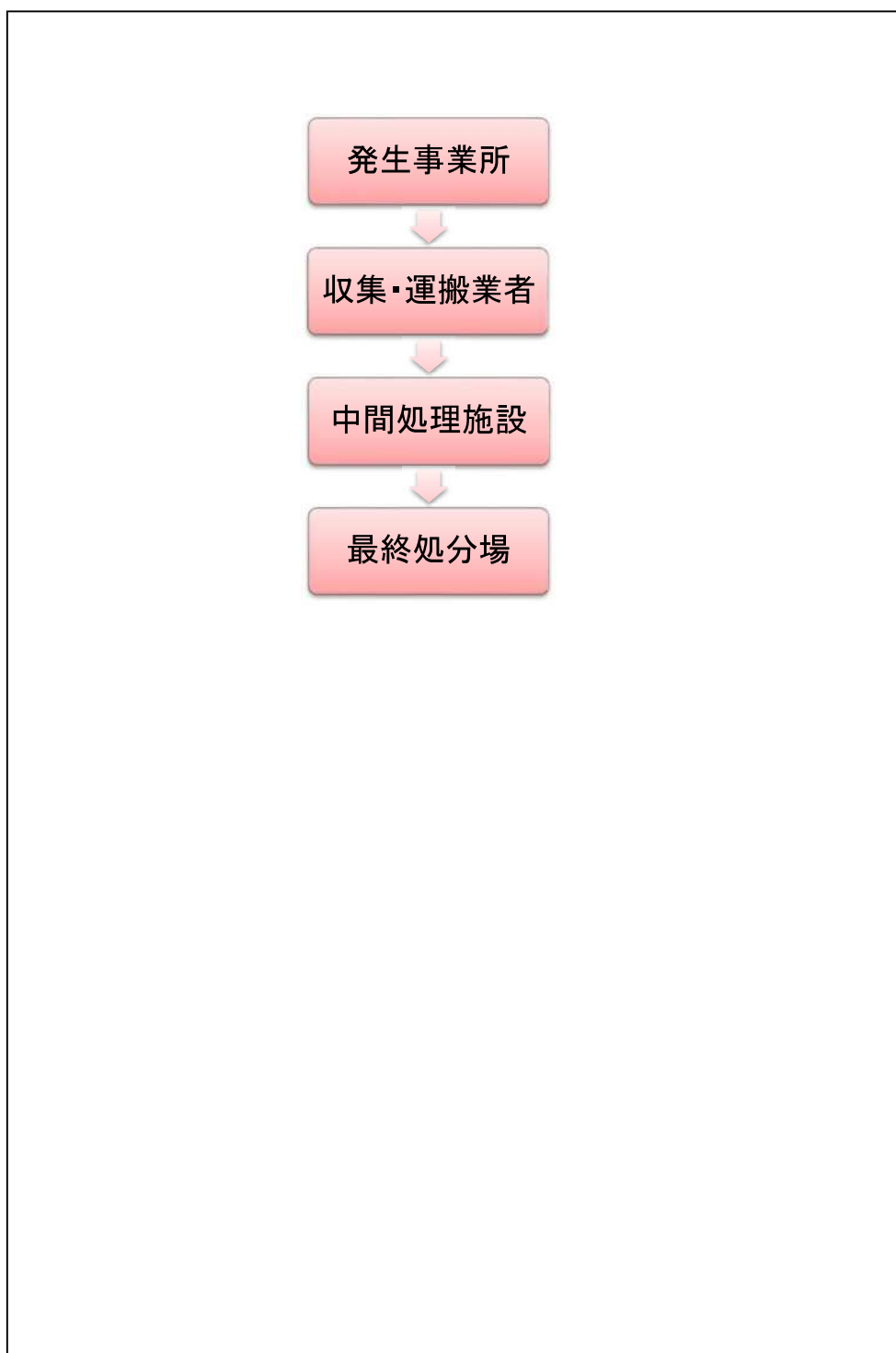
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	・可能な限り再生利用業者に処理を委託し、最終処分量を減少する ・優良認定のある処分業者を優先的に利用する ・電子マニフェストを利用し、法令違反のリスク回避徹底を行う ・分別を徹底する		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 前年度の取組の継続		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別添 1 処理工程図



別添 2 管理体制図



産業廃棄物処理計画書 別紙集計表

現状:前年度(令和6年度)実績量

計画:今年度(令和7年度)計画量(目標)

単位:トン

産業廃棄物の種類	排出抑制		自ら再生利用を行った(行う)量		自ら行う中間処理				自ら埋立処分又は 海洋投入処分を 行った(行う)量		処理の委託									
	排 出 量				自ら熱回収を 行った(行う)量		自ら中間処理により 減量した(する)量				全 処 理 委 託 量		優良認定処理業者への 処 理 委 託 量		再生利用業者への 処 理 委 託 量		認定熱回収業者への 処 理 委 託 量		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	
	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画
汚泥	6.97	6.62	—	—	—	—	—	—	—	—	6.97	6.62	5.29	5.03	6.97	6.62	0.00	0.00	0.00	0.00
廃油	2.97	2.82	—	—	—	—	—	—	—	—	2.97	2.82	2.97	2.82	2.97	2.82	0.00	0.00	0.00	0.00
廃プラスチック類	9.08	8.63	—	—	—	—	—	—	—	—	9.08	8.63	4.68	4.45	9.08	8.63	0.00	0.00	0.00	0.00
紙くず	6.70	6.37	—	—	—	—	—	—	—	—	6.70	6.37	5.36	5.09	6.70	6.37	0.00	0.00	0.00	0.00
木くず	124.97	118.72	—	—	—	—	—	—	—	—	124.97	118.72	15.99	15.19	124.97	118.72	0.00	0.00	0.00	0.00
繊維くず	0.24	0.23	—	—	—	—	—	—	—	—	0.24	0.23	0.00	0.00	0.24	0.23	0.00	0.00	0.00	0.00
金属くず	52.64	50.01	—	—	—	—	—	—	—	—	52.64	50.01	32.40	30.78	52.64	50.01	0.00	0.00	0.00	0.00
ガラス陶磁器等くず	5.04	4.79	—	—	—	—	—	—	—	—	5.04	4.79	5.04	4.79	5.04	4.79	0.00	0.00	0.00	0.00
廃石膏ボード	38.07	36.17	—	—	—	—	—	—	—	—	38.07	36.17	24.99	23.74	38.07	36.17	0.00	0.00	0.00	0.00
コンクリート片	1,994.00	1,894.30	—	—	—	—	—	—	—	—	1,994.00	1,894.30	0.00	0.00	1,994.00	1,894.30	0.00	0.00	0.00	0.00
アス・コン片	147.98	140.58	—	—	—	—	—	—	—	—	147.98	140.58	0.00	0.00	147.98	140.58	0.00	0.00	0.00	0.00
その他がれき類	33.30	31.64	—	—	—	—	—	—	—	—	33.30	31.64	15.28	14.52	33.30	31.64	0.00	0.00	0.00	0.00
建設混合廃棄物(安定型)	6.44	6.12	—	—	—	—	—	—	—	—	6.44	6.12	5.27	5.01	6.44	6.12	0.00	0.00	0.00	0.00
建設混合廃棄物(管理型)	149.93	142.43	—	—	—	—	—	—	—	—	149.93	142.43	90.10	85.60	149.93	142.43	0.00	0.00	0.00	0.00
石綿含有産業廃棄物	1.10	1.05	—	—	—	—	—	—	—	—	1.10	1.05	1.10	1.05	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
水銀使用製品	0.05	0.05	—	—	—	—	—	—	—	—	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	2,579.48	2,450.53	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2,579.48	2,450.53	208.52	198.12	2,578.38	2,449.48	0.00	0.00	0.00	0.00

様式第二号の八(第八条の四の五関係)
(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和7年 月 日	
豊橋市長 殿	
提出者	
住所	名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
氏名	愛知県公営企業管理者 企業庁長 権田 裕徳
電話番号	052-961-2111
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	豊橋南部浄水場
事業場の所在地	豊橋市老津町字南山田1番地
計画期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	水道業〔36〕 (上水道業、工業用水道業)
②事業の規模	上水給水量 16,612,119m ³ 工業用水配水量 11,002,090m ³ (令和6年度)
③従業員数	6名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1 産業廃棄物処理フロー図のとおり

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

総括管理者

豊橋南部浄水場 場長 壁谷 義彦

副総括管理者

豊橋南部浄水場 主査 松村 正輝

産業廃棄物処理責任者 (正) 場長 壁谷 義彦

産業廃棄物処理責任者 (副) 主査 松村 正輝

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	26,400 t	t
	(これまでに実施した取組) 汚泥の発生量を左右する要因は、濁度等の外的なもので、浄水場の自助努力で抑制する余地が少ないが、適切な浄水処理を行うことで減量する。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	22,000 t	t
	(今後実施する予定の取組) 適正な薬品入出庫簿使用量により、汚泥を減量する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 産業廃棄物の発生は汚泥のみである。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	25,308 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	20,975 t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
①現状	【前年度（令和6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	汚泥		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t	
	(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	汚泥		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t	
	(今後実施する予定の取組)			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
①現状	【前年度（令和6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類		汚泥	
	全処理委託量		1,092 t	t
		優良認定処理業者への処理委託量	1,092 t	t
		再生利用業者への処理委託量	0 t	t
		認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)			

(第5面)

	②計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類	汚泥	
		全処理委託量	1,025 t	t
		優良認定処理業者への処理委託量	1,025 t	t
		再生利用業者への処理委託量	0 t	t
		認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
		(今後実施する予定の取組)		
	※事務処理欄			

(第6面)

備考

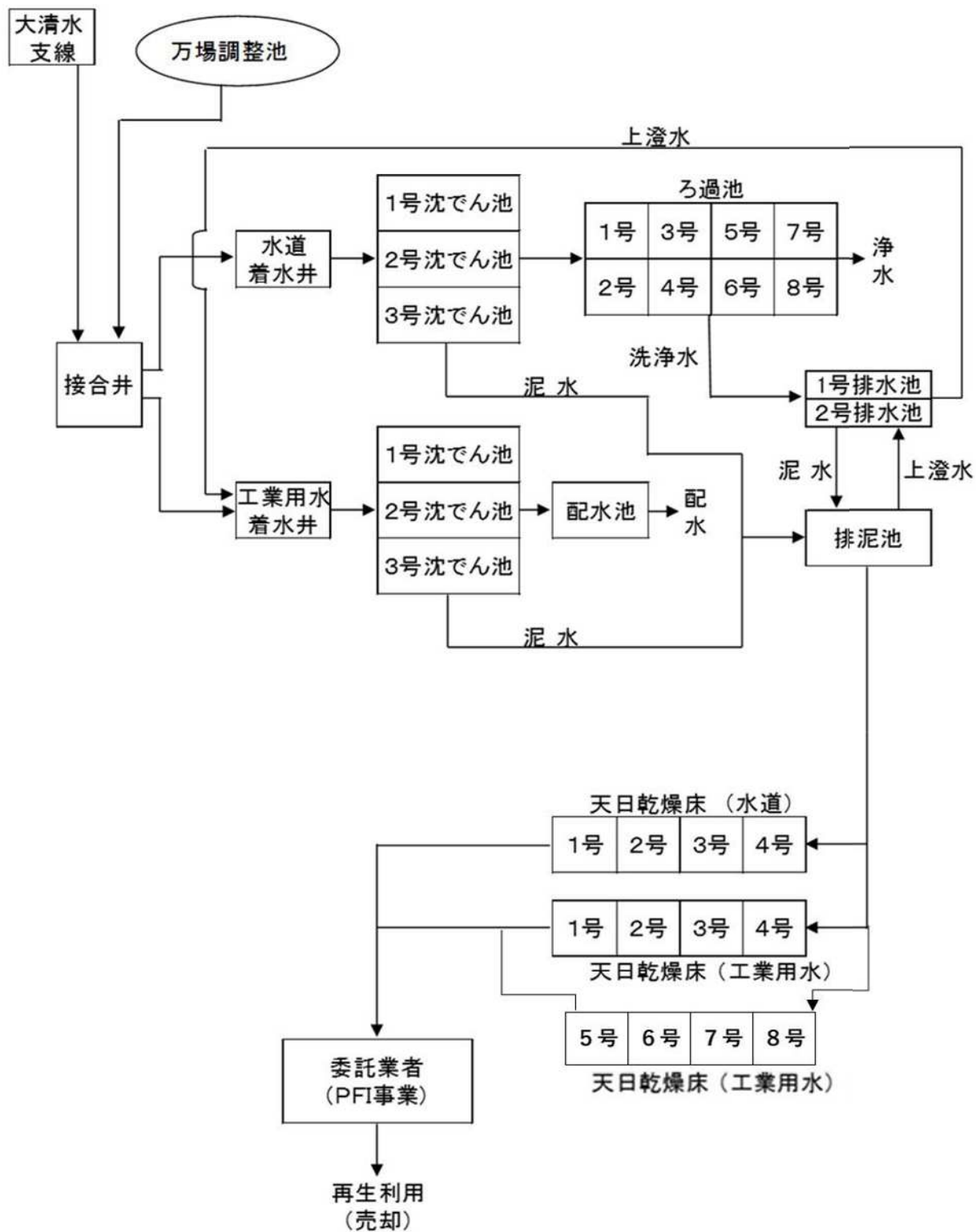
- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

令和6年度の産業廃棄物発生量及び令和7年度の目標

(単位：t／年)

産業廃棄物の種類 (名称)		汚泥								合計
項目										
令和6年度の実績	令和6年度の産業廃棄物発生量	26400.000								
	①自ら再生利用した量	0.000								
	②自ら熱回収を行った量(t/年)	0.000								
	③自ら中間処理により減量した量	25308.000								
	④自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量	0.000								
	⑤全処理委託量	1092.000								
	⑥優良認定処理業者への処理委託量	1092.000								
	⑦再利用業者への処理委託量	0.000								
	⑧認定熱回収業者への処理委託量	0.000								
	⑨認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.000								
令和7年度の目標	令和7年度の産業廃棄物発生量	22000.000								
	①自ら再生利用した量	0.000								
	②自ら熱回収を行った量(t/年)	0.000								
	③自ら中間処理により減量した量	20975.000								
	④自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量	0.000								
	⑤全処理委託量	1025.000								
	⑥優良認定処理業者への処理委託量	1025.000								
	⑦再利用業者への処理委託量	0.000								
	⑧認定熱回収業者への処理委託量	0.000								
	⑨認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.000								

別紙1 産業廃棄物処理フロー図



様式第二号の八(第八条の四の五関係)
(第1面)

産業廃棄物処理計画書		令和7年 6月23日
豊橋市長 殿		
提出者		
住所 豊川市八幡町野路92番地		
氏名 株式会社加藤解体工業		
代表取締役 酒井 正樹		
電話番号 0533-75-6262		
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。		
事業場の名称	株式会社加藤解体工業	
事業場の所在地	愛知県内各工事現場	
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日	
当該事業場において現に行っている事業に関する事項		
①事業の種類	07： 職別工事業（とび・土工工事業、解体工事業）	
②事業の規模	元請完成工事高： 6,000 万円	
③従業員数	20人	
④産業廃棄物の一連の処理の工程	既設建物解体工事 ・瓦おろし、建具取外し：金属くず、ガラス・陶磁器くず、紙くず、繊維くず※ ・飛散性アスベスト建材取外し：がれき類→埋立処分(安定型) ・上家解体：木くず、金属くず、廃プラスチック類、繊維くず、ガラス・陶磁器くず(石膏ボード)、コンクリート※ ・基礎解体：がれき類(コンクリート)、がれき混合物※ ・外構解体：木くず、金属くず、がれき類(コンクリート)※ ※木くず・金属くず・がれき類(コンクリート)・紙くずは再生処理業者に委託。 ※廃プラ・ガラス陶磁器くず・繊維くずは中間処理業者に委託し埋立処分	

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】 別表のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
①現状	【前年度（ 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量		t	t
	(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		t	t
	(今後実施する予定の取組)			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
①現状	【前年度（ 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類			
	全処理委託量		t	t
		優良認定処理業者への処理委託量	t	t
		再生利用業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)			

(第5面)

	②計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類		
		全処理委託量		t
			優良認定処理業者への処理委託量	t
			再生利用業者への処理委託量	t
			認定熱回収業者への処理委託量	t
			認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
		(今後実施する予定の取組)		
	※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

6年度の産業廃棄物発生量及び7年度の目標

(单位: t/年)

[illegible]

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第 1 面）

産業廃棄物処理計画書	
令和 7 年 6 月 24 日	
豊橋市長 殿	
提出者	
住所 豊橋市中原町字地歩24の1	
氏名 井村屋フーズ株式会社	
取締役社長 近藤 久嗣	
電話番号 0532-41-1191	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	井村屋フーズ株式会社 七根工場
事業場の所在地	豊橋市西七根町奥足田口88
計画期間	令和6年4月01日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	コード 09 食品製造業
② 事業の規模	5,788百万円
③ 従業員数	131人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	・汚泥A→処理委託業者に委託し肥料として再資源化 ・廃プラスチックA→処理委託業者に委託しセメント製造燃料として再資源化 ・廃プラスチックB→処理委託業者に委託し安定型埋立処理 ・動植物性残渣A B→処理委託業者に委託し肥料化及び、焼却処理 ・廃油→処理委託業者に委託し油水分離し燃料として再資源化 ・金属くずA B→処理委託業者に委託し製鉄の原料として再資源化 ・紙くずA→処理委託業者に委託し製紙の原料として再資源化 ・可燃物→自社で一般廃棄物として豊橋市資源化センターへ運搬後燃料として再資源化

（日本産業規格 A 列 4 番）

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) ※公害防止統括者 ※公害防止統括代理者 ※廃棄物担当部署 環境管理チーム ※廃棄物処理とその悪臭管理者及び実務代行担当者 ※特別管理産業廃棄物管理者			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥A(有機汚泥)	
	排出量	5006.2 t	t
	(これまでに実施した取組) ・汚泥Aは脱水機での第4四半期に凝集剤を変更したことにより脱水効率が向上し排出量を抑えられました。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥A(有機汚泥)	
	排出量	5,000 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・現在の所ありません。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・汚泥Aその他5品目について社内分別実施します。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・特にありません。		

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) ※公害防止統括者 ※公害防止統括代理者 ※廃棄物担当部署 環境管理チーム ※廃棄物処理とその悪臭管理者及び実務代行担当者 ※特別管理産業廃棄物管理者			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣A	動植物性残渣B
	排出量	231.9 t	1.5 t
	(これまでに実施した取組) ・動植物性残渣Aは昨年(301.4t)より残渣を発生する生産生産量が減少した為、減量しました。 ・適切な分別を継続し、ロス・ミス削減活動継続しています。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣A	動植物性残渣B
	排出量	200.0 t	1.5t
	(今後実施する予定の取組) ・品質異常品の発生を抑制する取り組みを継続し、食品ロス活動に取り組みます。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・動植物性残渣その他5品目について社内分別を実施します。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・特にありません。		

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) ※公害防止統括者 ※公害防止統括代理者 ※廃棄物担当部署 環境管理チーム ※廃棄物処理とその悪臭管理者及び実務代行担当者 ※特別管理産業廃棄物管理者			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチックA	廃プラスチックB
	排出量	54.0 t	3.5 t
	(これまでに実施した取組) ・廃プラスチックBは工場内改修工事があり昨年目標値の3tより増加しました。引き続き3tを目標値とします。 ・適正分別を継続します。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラA(ポリ袋)	廃プラスチックB (塩ビ等)
	排出量	53.0 t	3.0 t
	(今後実施する予定の取組) ・現在の所ありません。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・廃プラスチックその他5品目について社内分別実施します。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・特にありません。		

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) ※公害防止統括者 ※公害防止統括代理者 ※廃棄物担当部署 環境管理チーム ※廃棄物処理とその悪臭管理者及び実務代行担当者 ※特別管理産業廃棄物管理者			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油（ギヤー油）	
	排出量	0.4 t	t
	(これまでに実施した取組) ・適正分別を継続します。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油（ギヤー油）	
	排出量	0.3 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・現在の所ありません。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・廃油その他5品目について社内分別を実施します。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・特にありません。		

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) ※公害防止統括者 ※公害防止統括代理者 ※廃棄物担当部署 環境管理チーム ※廃棄物処理とその悪臭管理者及び実務代行担当者 ※特別管理産業廃棄物管理者			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くずA(金属くず)	金属くずB(乾電池)
	排出量	8.6 t	0.1 t
	(これまでに実施した取組) ・金属くずAは改修工事及び、廃止機械が多く発生した為、増加しました。 ・金属くずBは完全有価物以外の引き取りになったので昨年から分別に取り組みました。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くずA(金属くず)	金属くずB(乾電池)
	排出量	8.0t	0.1 t
	(今後実施する予定の取組) ・現在の所ありません。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・金属くずその他5品目について社内分別を実施します。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・特にありません。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥A（有機汚泥）	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	ー t	t
	（これまでに実施した取組） ・ 自ら再生利用は行っていません。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥A（有機汚泥）	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	ー t	t
	（今後実施する予定の取組） ・ 現在のところ自ら再生利用の予定はありません。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	ー t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	4872.7 t	t
	（これまでに実施した取組） ・ 汚泥A（有機汚泥）は脱水機で水分を減量を行っています。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	ー t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	4870.0 t	t
	（今後実施する予定の取組） ・ 脱水機による水分減量を継続して実施します。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動・植物性残渣A	動・植物性残渣B
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	ー t	ー t
	(これまでに実施した取組) ・ 自ら再生利用は行っていません。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動・植物性残渣A	動・植物性残渣B
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	ー t	ー t
	(今後実施する予定の取組) ・ 現在のところ自ら再生利用の予定はありません		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動・植物性残渣A	動・植物性残渣B
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	ー t	ー t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	ー t	ー t
	(これまでに実施した取組) ・ 自ら熱回収及び、中間処理は行っていません。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動・植物性残渣A	動・植物性残渣B
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	ー t	ー t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	ー t	ー t
	(今後実施する予定の取組) ・ 現在のところ自ら熱回収及び、中間処理の予定はありません。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラA(ポリ袋)	廃プラB(塩ビ等)
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	ー t	ー t
	(これまでに実施した取組) ・ 自ら再生利用は行っていません		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラA(ポリ袋)	廃プラB(塩ビ等)
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	ー t	ー t
	(今後実施する予定の取組) ・ 現在のところ自ら再生利用の予定はありません。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラA(ポリ袋)	廃プラB(塩ビ等)
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	ー t	ー t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	ー t	ー t
	(これまでに実施した取組) ・ 自ら熱回収及び、中間処理は行っていません。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラA(ポリ袋)	廃プラB(塩ビ等)
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	ー t	ー t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	ー t	ー t
	(今後実施する予定の取組) ・ 現在のところ自ら熱回収及び、中間処理の予定はありません。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油(ギヤー油)	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組) ・自ら再生利用は行っていません。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油(ギヤー油)	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組) ・現在のところ自ら再生利用の予定はありません。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油(ギヤー油)	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組) ・自ら熱回収及び、中間処理は行っていません。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・現在のところ自ら熱回収及び、中間処理の予定はありません。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くずA(金属くず)	金属くずB(乾電池)
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	ー t	ー t
	(これまでに実施した取組) ・ 自ら再生利用は行っていません。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くずA(金属くず)	金属くずB(乾電池)
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	ー t	ー t
	(今後実施する予定の取組) ・ 現在のところ自ら再生利用の予定はありません。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くずA(金属くず)	金属くずB(乾電池)
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	ー t	ー t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	ー t	ー t
	(これまでに実施した取組) ・ 自ら熱回収及び、中間処理は行っていません。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くずA(金属くず)	金属くずB(乾電池)
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	ー t	ー t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	ー t	ー t
	(今後実施する予定の取組) ・ 現在のところ自ら熱回収及び、中間処理の予定はありません。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
①現状	【前年度（ 6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類		汚泥A(有機汚泥)	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量		一	t
	(これまでに実施した取組) ・ 本件について実施している事項はありません。			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類		汚泥A(有機汚泥)	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		一 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 現在のところありません。			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類		汚泥A(有機汚泥)	
	全 処 理 委 託 量		133.5t	t
		優良認定処理業者への処理委託量	一 t	t
		再生利用業者への処理委託量	133.5 t	t
		認定熱回収業者への処理委託量	一 t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	一 t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 委託処理業者の現地確認を毎年行っている。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
①現状	【前年度（ 6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類		動・植物性残渣A	動・植物性残渣B
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量		ー t	ー t
	(これまでに実施した取組) ・ 本件について実施している事項はありません。			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類		動・植物性残渣A	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		ー t	ー t
	(今後実施する予定の取組) ・ 現在のところありません。			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類		動・植物性残渣A	動・植物性残渣B
	全 処 理 委 託 量		231.9 t	1.5 t
		優良認定処理業者への処理委託量	0 t	1.5 t
		再生利用業者への処理委託量	231.9 t	1.5 t
		認定熱回収業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 委託処理業者の実地確認を社内規定に沿って行っている。 ・			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
①現状	【前年度（ 6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類		廃プラA(ポリ袋)	廃プラ(塩ビ等)
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量		ー t	ー t
	(これまでに実施した取組) ・ 本件について実施している事項はありません。			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類		廃プラA(ポリ袋)	廃プラ(塩ビ等)
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		ー t	ー t
	(今後実施する予定の取組) ・ 現在のところありません。			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類		廃プラA(ポリ袋)	廃プラ(塩ビ等)
	全 処 理 委 託 量		53.8 t	3.5 t
		優良認定処理業者への処理委託量	53.8 t	3.5 t
		再生利用業者への処理委託量	53.8 t	ー t
		認定熱回収業者への処理委託量	ー t	ー t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	ー t	ー t
	(これまでに実施した取組) ・ 委託処理業者の実地確認を社内規定に沿って行っている。			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
①現状	【前年度（ 6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類		廃油(ギヤー油)	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量		ー t	ー t
	(これまでに実施した取組) ・ 本件について実施している事項はありません。			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類		廃油(ギヤー油)	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		ー t	ー t
	(今後実施する予定の取組) ・ 現在のところありません。			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類		廃油(ギヤー油)	
	全 処 理 委 託 量		0.4 t	t
		優良認定処理業者への処 理 委 託 量	ー t	t
		再生利用業者への処 理 委 託 量	0.4 t	t
		認定熱回収業者への処 理 委 託 量	ー t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	ー t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 委託処理業者の現地確認を毎年行っている。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
①現状	【前年度（ 6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類		金属くず(金属くず)	金属くず(乾電池)
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量		ー t	ー t
	(これまでに実施した取組) ・ 本件について実施している事項はありません。			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類		金属くず(金属くず)	金属くず(乾電池)
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		ー t	ー t
	(今後実施する予定の取組) ・ 現在のところありません。			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類		金属くず(金属くず)	金属くず(乾電池)
	全 処 理 委 託 量		8.6 t	0.1 t
		優良認定処理業者への処理委託量	8.6 t	0.1 t
		再生利用業者への処理委託量	8.6 t	0.1 t
		認定熱回収業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 委託処理業者の実地確認を社内規定に沿って行っている。			

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類		汚泥A（有機汚泥）	
	全処理委託量		133.0 t	t
		優良認定処理業者への処理委託量	—	t
		再生利用業者への処理委託量	133.0 t	t
		認定熱回収業者への処理委託量	— t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	t
	(今後実施する予定の取組) ・委託処理業者の実地確認を毎年継続する。			
	※事務処理欄			

	②計画	【目標】			
		産業廃棄物の種類		動・植物性残渣A	動・植物性残渣B
		全処理委託量		230.0 t	1.4 t
			優良認定処理業者への処理委託量	—	1.4t
			再生利用業者への処理委託量	230.0 t	1.4 t
			認定熱回収業者への処理委託量	t	t
			認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
		(今後実施する予定の取組) ・委託処理業者の実地確認を社内規定沿って毎年実施する。			
※事務処理欄					

(第5面)

	②計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類	廃プラA(ポリ袋)	廃プラB(塩ビ等)
		全処理委託量	53.0 t	3.0 t
		優良認定処理業者への処理委託量	53.0 t	3.0 t
		再生利用業者への処理委託量	53.0 t	ー t
		認定熱回収業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
		(今後実施する予定の取組) ・委託処理業者の実地確認を社内規定に沿って実施する。		
	※事務処理欄			

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類		廃油(ギヤー油)	
	全処理委託量		0.3 t	t
		優良認定処理業者への処理委託量	—	t
		再生利用業者への処理委託量	0.3 t	t
		認定熱回収業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・委託処理業者の実地確認を毎年実施する。			
	※事務処理欄			

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類		金属くずA(金属くず)	金属くずB(乾電池)
	全処理委託量		8.0 t	0.09 t
		優良認定処理業者への処理委託量	8.0 t	0.09 t
		再生利用業者への処理委託量	8.0 t	0.09 t
		認定熱回収業者への処理委託量	ーt	ー t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	ー t	ー t
	(今後実施する予定の取組) ・委託処理業者の実地確認を社内規定に沿って実施する。			
	※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

〇〇年度の産業廃棄物発生量及び〇〇年度の目標

(単位：t/年)

項目		産業廃棄物の種類 (名称)								合計
〇 年 度 の 実 績	〇〇年度の産業廃棄物発生量									
	①自ら再生利用した量									
	②自ら熱回収を行った量(t/年)									
	③自ら中間処理により減量した量									
	④自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量									
	⑤全処理委託量									
	⑥優良認定処理業者への処理委託量									
	⑦再利用業者への処理委託量									
	⑧認定熱回収業者への処理委託量									
	⑨認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量									
〇 年 度 の 目 標	〇〇年度の産業廃棄物発生量									
	①自ら再生利用した量									
	②自ら熱回収を行った量(t/年)									
	③自ら中間処理により減量した量									
	④自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量									
	⑤全処理委託量									
	⑥優良認定処理業者への処理委託量									
	⑦再利用業者への処理委託量									
	⑧認定熱回収業者への処理委託量									
	⑨認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量									